2020 年 5 月 21 日開催

シニアに響くマーケティング施策
～人生 100 年時代の現状分析と変化～

株式会社ハルメクホールディングス
生きかた上手研究所 所長
梅津 順江

目　　次

１．はじめに 1
２．「ハルメク」について 1
３．シニア市場の現状分析 2
４．シニアならではの顧客視点　シニアはどこから買うのか 6
５．シニア顧客にしない８つのこと 8
６．シニア市場の今後と可能性　コロナ後、何が変わるのか？ 11
７．最後に 16

【禁無断転載】
この PDF はおためし用です。CMS メンバーにご契約いただくことで、レポートの全文をダウンロードいただけます。

１．はじめに

私は、メーカー勤務を経て、リサーチ会社で定性調査のモデレーターを 14 年経験後、4 年前にハルメクに入社した。現在、1000 人近くのシニアの方を対象に、インタビューや取材を行う日々を過ごしている。誌面づくりや商品開発、広告制作などにおいても、ニーズを掴むにはお客様に聞くのが一番である。お客様の言葉のシャワーを浴び、表情や息づかいを近くで感じられる環境にいられることを幸せに感じている。

本講義では企業側の視点から、シニアマーケティングの現状や変化について紹介したい。

２．「ハルメク」について

（１）50 代以上のシニア女性をターゲットに主に雑誌事業と通販事業を展開

雑誌の創刊は 1996 年。4 年前に名称を「いきいき」から「ハルメク」に変更している。書店販売をしないダイレクトマーケティングモデルで、現在は 30 万部を超えており、女性誌売上 No.1 だけでなく、「週刊文春」を抜き、雑誌業界 No.2 となった。

50 代からの女性がよりよく生きることを応援する。という経営理念のもと、2000 年からは通販事業も展開しており、雑誌から招客するビジネスモデルにより、通販事業でも 100 億円規模の売上になっている。現在は「ハルメク Web」という名で LINE や Yahoo にも出稿しており、旅行やイベントなどの文化事業、店舗事業、新規事業なども含め、様々な視点からシニア女性を応援している。

（２）「生きかた上手研究所」

日野原重明先生の著書「生きかた上手」から命名された「生きかた上手研究所」は、シンクタンク機関として 2014 年に発足し、現在私が所長を務めている。ここでは、ハルメクをより良くするために、主に読者から構成される「ハルトモ」という 3000 人近くのモニターを束ねる組織を運営し、企業へのサポートや、シンクタンクとして研究結果レポートの作成・販売をしている。ハルトモは、読者が自発的に参加しているモニター組織であるため、インタビュー・取材・アンケート・商品モニターなどへの協力以外にも、シニアモデルとして誌面やイベントで活躍する方も多く、その活動の場はハルメク以外の B to B にも広がっている。生きかた上手研究所自体も、社内のみならず社外リサーチやコンサルティングが増えてきている。例えばポケモン GO とのコラボレーションの際には、事前に定量調査をした上でワークショップを開催し、誌面タイアップや実際のイベントを開催した。「ハルトモ」に実際に体験してもらい、この読者たちをリードすることでさまざまなイベントに招致している。このように、最初のリサーチだけでなく読者の声を活用するところまでサポートしている。

【禁無断転載】
この PDF はおためし用です。CMS メンバーにご契約いただくことで、レポートの全文をダウンロードいただけます。

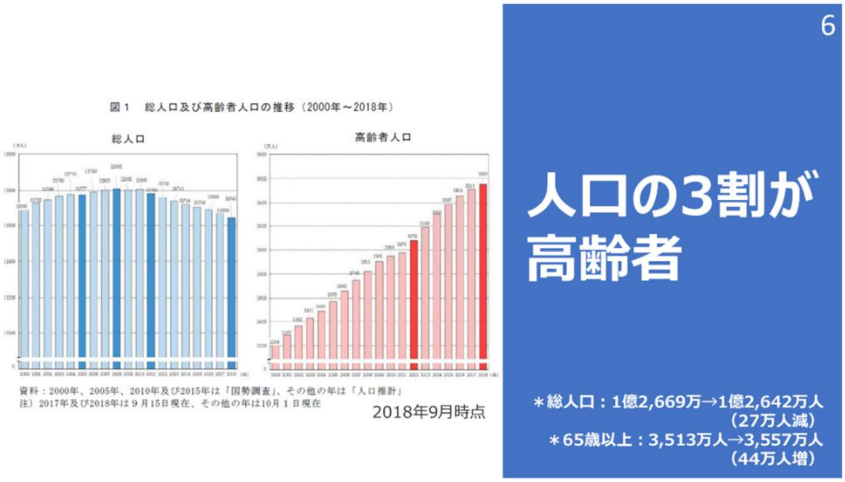
３．シニア市場の現状分析

（１）人口の 3 割が高齢者

日本は「高齢化社会」ではなく今や「超高齢化社会」である。2017 年の流行語大賞ノミネートの「人生 100 年時代」という言葉は、長寿社会を表現する代名詞になっている。最近はそれすら乗り越え、「これからは人生 120 年時代」などという言葉も聞こえ始め、今後は寿命の限界とされている「120 年」さえも伸びていくのではないかと想像してしまう。

タイトルの「高齢者」はここでは 65 歳以上を指しているが、2018 年の 9 月時点で総人口の 27.7%とかなり増加しており、「超高齢先進国」と言える。女性は更に高く 31%、人口は 2000 万人を超えて過去最高であり、これも、さまざまな企業がこの大きなマーケットに注目をしている理由であろう。

図－１



（２）50～70 代女性は、自分を「高齢者」「シニア」とは思っていない

50～70 代女性は気持ちが若い人が多く、60 代後半で席を譲られることに違和感を持っていたり、70 代で自分のことを「中年」と呼んだりするなど、自分に対して、いわゆる「おばあさん」という立場とは一線をひいていることも多い。まだ自分の親が存命しているというケースも少なくなく、相対的にみて「中年」と感じるという人もいるようだ。歳を取る感覚が麻痺していて年齢がストップする。そんなこともいえるのかもしれない。そんな彼女たちは何を考えているのだろうか。

①先が読めないから、とりあえず、今を楽しむ「後回し・先延ばし志向」

「この先どのようにしていきたいですか」という質問をしたことがある。「終活を考えている」や「断捨離をはじめた」という答えを想像していたが、実際には「少し先、例えば 2～3 ヶ月は想像することができるが、3 年先、5 年先、またそれ以上先のことは全く見えて

【禁無断転載】
この PDF はおためし用です。CMS メンバーにご契約いただくことで、レポートの全文をダウンロードいただけます。